

秋府諸士系譜

凡例

藩臣家譜

夫有書契之作文藉由是生焉人文於是乎
顯傳云萬物本乎天本乎祖又云聖人之
天下所且先者五其一曰治親二曰報功
三代之教皆所以明人倫也人倫不明人道
不全由是觀之則譜牒之所存也大哉我
藩推恩之初隨從之士至世之所選舉之臣
闕闕功勞存乎方策者不為不少焉今也相
去百數十年武斷之弊稍息文化大行四民

九州大学
附属図書館 和 備

010112012509448



219.1
5499

樂業各得其所昔日我

與德宮恭侯好學政治之暇不遺故舊之渥也
廼命卜翁先生以藩臣之譜先生雖在劇職
日夜孜孜從事於斯蒐輯秘閣所記家之所
譜及稗官小說所傳約其文辭削其煩重積
數十年而稿脫焉粵辛丑之春獻納之秘府
因使清題一言焉余受而閱之著若觀火然
且先生之自序備具焉復亦何贅焉蓋惟昇
平日久風移俗易諸臣之家無繼嗣者取其

所好棄族為嗣異姓相冒習以為常不翅羸
氏之旨者流俗之弊舉世如此則恬然莫之
怪族之駁雜交錯譬猶骨董羨也於是清恭
竊揣

先公所以余先生抑有治親報功之意耶憾在世
日淺膏澤未洽而薨於戲惜哉而今

公亦雖弱冠襲封明敏篤學則又將待殊政於他
日矣敢猥述所聞以奉應先生之需云

原惟清謹題

秋府諸士系譜續篇自序

傳曰君臣同心化乃成也良有故矣粵

先君

源長貞公

長邦公有校訂諸士世祿之新古勤務之功所以

編集系譜之

命也歷數十年而成就焉獻之於

長惠君

君好之也又蒙須續書系譜及鈎畫系圖以審記

支裔外戚之

余也累歲而終業矣乃為前篇續篇之二部也
雖據戶之而集錄傳聞之不詳亦有之也加
之予庸劣固陋而載藉之不備故不能無遺
漏也後人考正闕漏則

國家重大臣體群臣之義庶幾有小補矣

安永甲午早月望日遠山卜翁管利義謹書

安永辛丑卜翁七十有五歲繕寫之奉獻於

長堅石

秋府諸士系譜

凡例

一秋府諸士系譜

長負云長邦云即代遠山金丸為利義云 係自初

編集一稿十年也從之

長惠云即代安永三〇子云云是也

云云故一其後再續編系因之記一加一故

之其後

長舒云即代遠山金丸為維德云 余廿九安永

の初より寛政二〇より二十年の事と記し
且前書の送編と補い誤とひらけし其後
長詔云即代井上元忠の三定遠山令其利謙
書傳し。令と多し。寛政三〇より文政六〇こ
三十三〇の事と記し。且前編徳編系圖と一部
として是と補し。今般天保元〇又と書傳の
令と多し。文政六〇以後の事と書傳且前書の
送編と補い或は誤と記し。其系圖に在る事
一々を編集仕へ事

遠山利氏初て編集より追て書傳く事。凡
例皆全く記し。今般元般名氏と云し。書
法多くおぼしむ。凡般元般名氏と云し。故
今般元般名氏と云し。凡般元般名氏と云し。
次は元般名氏と云し。編集の事。凡般元般名氏と云し。
凡般元般名氏と云し。編集の事。凡般元般名氏と云し。
一七條と云て者。凡般元般名氏と云し。編集の事。
後。凡般元般名氏と云し。編集の事。

一長身云より

長邦のまゝ法士ゆまの法牙伝とのふり傳の風
且古先の物傳とし如く其集のり年

一 福島にてハ拓列よりお初とを拓列所傳代を記す

五部と申は伊所傳代と唱へ凡て

長國云より五部と申傳代といふ

忠之云より五部と申は伊所傳代よりたて例

傳といふ

長國云より五部と申傳代といふ

長國云よりお初と申は伊所傳代と云ふたて移り

と伝書記一とて年

一 伊代と申は名と記し

長國云初名記と記し

長國云初長伝と記し一伊代と申は名記分則

てハ初名といふ

長國云長國と記し一初と申は名記とて年

伊所代と

奥孫方ハ伊所傳代と記し

一 諸士年先記 伊所傳代とての成功の法牙ハ

あし書記しつた化ふよその事ハ波田右の事

一 徳士信泉よて致功しつ長井送牛砥日云より事

実と山川碩角すまじき書集のい書信泉後取し

名付人多くハは書ハ張リ波田右の事

一 徳士先恒の年の事 委及お知地らし方し代し

岩子或ハ却りして不智み類焼のあふ山一山子

家系と外書及後失をとりて不れりし事し、依し

委し不委よの元別とすし、事

一 実書元の姓名ハ中への印と記則去し記直し事

一 山旗の山旗のと与れし唱の都て山旗をりつと

記し事

一 内者此山屋恒以山法恒と唱の都て山法恒以と

記し事

一 山長初より山を物取と与れ唱の都て山を物取と記す

一 山部より山免との山部との都て山部よりと記す

一 山内山内例百の山部との都て山内山内と記す

右十二ヶ條遠山利民編集茶編凡例しヶ條のい

一 諸士系譜 所先代印より山部と事と書傳へ

長為君の 命と多しふと云ふ事と告ては皇太子
 申すに相と皇女永三の甲午の事とて返す不旨
 物知の語或は物と在出物役を皇女を流流
 きて山用五知事又ハ流藝許めとゆ事と死
 一系流中にて先位より分流或ハ印威ホり親と
 故流し以上系圖と書加ハれよ 命と多しふと
 云ふ事と云ふ

一系編は書傳にてハ柱を流し系流し名の眼と通て

おとと奉に一續編と云

一系編ハ 命と云けを意以上の事とにもし續編ハ
 他外の流しとに云ふ 命と云りてあつと
 是向に一ぬそ又事と不事との差別り
 右四ヶ条遠山利氏續編編集の凡例也

一流し系流續編書傳の 命と多し

長急云沖初人のみより女永の初より五流と集
 寛政三の庚戌十二月に凡二千の事と云ふと
 云ふ一記と

一 け復編の父トる

長五郎の 命をとりておとの書出—子因て改正

—おとしはあふまゝして先の書出—の述編或ハ

誤ありしことを去りてついで又文名の誤字を去

おとの復工因て先後をひらめきしおとし書出

くく—おとし—かくく—述編と補いし徳と

のみ編首より後尾を

一 右ニテ餘遠山維徳書出—序の凡例を

一 流土系傍復編書出の事—文化十三〇子の林

命をとりて見よとの事—おとし文化と復文の未

の書とれんとの事—と 公取の証書と書

おとしの証と—証書

一 弟編の書と書—復編の系と書と書

せり今はおとしと別をせし—おとしの事と見よ

三部の書と書—おとし—おとし—おとし

おとし—おとし—おとし—おとし

一 文化十三〇子の復編の書と書—おとし—おとし

おとし—おとし

右之十條井上正定遠山利康嘉隆ノ節の凡例
一 須知此系不切扱共之の合意以上と一列として以外
と一列として記し事

一 若書先世何れの子孫と考へ其家分流
し之とも申家の次にお代に凡其遊よてお代
新在転入方の分は其家

一 伊勢系に初りて在り先世の順と記して有るの
と記し事

一 但分流後代初りて其家と初代と記し事

一 須知此系不切扱共之の合意以上と一列として
出されし初代として申文に記し其家分流
の由と又初代と 伊勢系に初りて有るの
以後以下並行す所にて此を公仕と記し
中絶し初録し事

一 初代不切扱共之の合意以上と一列として
皆初代共之の合意以上と一列として記し
出さず

一 須知此系不切扱共之の合意以上と一列として

神子事の初ては且之志の遠字の初て又事
短くおはは、後心行紙と文おはは事

夫保二〇印公

土田白翁維教
手稿市井老之武
源道深冬乃三周
吉田祥即維幹
浅紙如丸乃晒利
井上元在乃西右

流士系譜目安

一 御當子初ては、臣出らぬ外、以上は在但は初代
死し其系先但し依り中庭より御孫一公事

御前代より

一 御當子仕り元出候下、お都の儀、中庭に記し
且、中庭に化し、出引に仕成ハ、之系より、成候儀、
記是又中庭より御孫一公事

一 新子、右出給知、此系、切取、此の儀、元より記し公事
一 隱指家督記し公事

一 泊以指为底记（一）

一 汶氏系出河记（一）

一 泊南所值河宜宜山左方也得自出第九行西部
九外北之记上下山以是近及乳出指为记（一）

一 连山内底九浦指底并指知身九及等未记（一）

一 泊形了山指修九浦未之记（一）

一 比旅出在初记（一）

一 泊位乳出方江由供流得尔之记亦之记（一）
一 出指即之记亦之记（一）

一 泊一字指底在得底亦记（一）

一 重三指从河所修初亦记（一）

一 河指式之指底之记（一）

一 泊指指之指底之记（一）

一 之记（一）

一 泊系出指以供正保之记亦之记亦之记亦之记

一 之记（一）

一 泊指之记亦之记亦之记亦之记亦之记

一 泊副指之记亦之记

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 巡元上復出州札

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一 所不備之部

一百五拾石

權采子卿

一山石石

平内

長與云山分知前切投石福志不山出後

後知也山北也一石

一而山石石

係取者石乃

一而五拾石

山石一石石

一而而山石石

木竹角石乃

長與云即分知而切投石福志不山出後

長與云即分知而切投石福志不山出後

石 順石

一四拾石拾五石

松村長矣

一四拾石拾石

中村 拾年

長與云秋月山打入後後知石福志不山出後

一貳百五拾石

田代 產即

一白石

田代 永房

一四拾石拾石

田代 八多

長與云秋月山打入後切投石福志不山出後

一白石

一而拾石

長井 自石

長且云所代給知方此抱し家

一三百三拾石

渡邊 長兵衛

一一百三拾石

白石 幸兵衛

一一百五拾石

同 半兵衛

一一百五拾石

山田 金吉

一一百石

西川 左衛門

一一百石

高橋 清兵衛

一一百石

吉田 孫兵衛

一一百石

沼田 又兵衛

一一百石

吉田 幸兵衛

一一百三拾石

吉田 清兵衛

一一百石

白石 幸兵衛

一一百三拾石

吉田 幸兵衛

一一百石

磯 徳兵衛

一一百八拾石

吉田 幸兵衛

一一百五拾石

宮井 小市

一一百九拾石

同 幸兵衛

一一百三拾石

渡邊 長兵衛

一 百八拾石

一 百五拾石

一 百石

一 百五拾石

一 百石

一 百石

一 三人扶物拾石

一 山石長與空而伏切格魚抱後須知

一 山百石

六久保家

新若

新原

町田

他

近

田代

吉村

一 山百五拾石

一 百五拾石

一 山百石

一 山百石

一 百石

一 百五拾石

一 二人扶物拾石

一 百五拾石

一 山百石

一 山百五拾石

山田久三

江崎

吉村

吉田

吉

吉村

吉田

吉

吉田

吉

一百石

長上 仁平

一百石

長上 仁平

一百石

長上 仁平

一四人持物振石

山内 仁平

長與云即代切振石山抱一系

一百石

長與云即代切振石山抱一系

田代 幸九郎

一百石

有

林 久丸

一百石

有

上野 四郎

一四六持物振石

一四六持物振石

有

中村 忠次

一百石

有

久野 彦助

一百石

長與云即代切振石山抱一系

正忠 持之郎

一百石

長與云即代切振石山抱一系

一四六持物振石

山内 仁平

一四六持物振石

山内 仁平

一四六持物振石

山内 仁平

一四六持物振石

山内 仁平

一四六持物振石

山内 仁平

一四六持物振石

山内 仁平

長慶云卿代後知此抱之系

一之百石

吉田祥勝

一松拉石

宮井 正徳云

一而石

小坂 恒方

一而石

山本 五郎允

長慶云卿代切持名抱後後知此及三丁系

一而石

田代 伊兵衛

一而石

後道 免一郎

一而石

後道 半一郎

一而石

小林 氏長

一而石

堀尾 久允

一而石

真公集抱部入

長本 又方

一而石

建禮親王代後知此抱交

長本 活弁

長慶云卿代切持名抱三身出丁系

一而石

長慶云卿代後知此及三

正号 仙方

一而石

長慶云卿代後知此及三

長本 仙方

一而石

長慶云卿代後知此及三

後道 杏林

一而石

一 四人持物指西石 九石

一 三人持物指西石 九石

一 二人持物指西石

一 一人持物指西石

一 四人持物指西石

一 三人持物指西石

一 二人持物指西石

一 一人持物指西石

一 百人指石

西石

西石

西石

西石

西石

西石

西石

西石

西石

一 二人持物指西石

一 一人持物指西石

一 百人指石

一 四人持物指西石

一 三人持物指西石

一 二人持物指西石

一 一人持物指西石

一 百人指石

一 長軌云即代後知方即抱乳

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

伊地休事

長軌云即代後知方即抱乳

長軌云即代後知方即抱乳

一百五拾石

宮崎縣

一廿百石

宮崎縣

長瀬公卿代切取方由抱入家

一廿人持取石

尾形仁三郎

一拾人持取

下川壽仙

長瀬公卿代切取方由抱入家

一廿七拾石

吉田嘉久

一廿百石

宮崎縣

長瀬公卿代切取方由抱入家

一拾石

古井幸一也

一拾石

中村忠記

一拾石

江原之五右衛門

長瀬公卿代切取方由抱入家

一拾人持取

伊藤 較

一拾人持取

坂田 嘉久

一廿人持取石

小野 茂

一廿人持取石

田代 嘉三郎

一拾石

長瀬公卿代切取方由抱入家

東 正太郎

一 只招招招

希田 招招

一 只招招招

吉田 招招

一 只招人招

户原 招招

一 只招人招

伊东 招招

一 只招招招

吉打 招招

一 只招招招

吉井 招招

一 白石

長部 招招

上田 招招

一 只招招招

一 白石

長部 招招

江原 招招

一 只招招招

萩原 招招

一 只招招招

一 只招人招

松金 招招

一 只招招招

川行 招招

長部 招招

一 只招人招

内枝 招招

一 只招人招

吉田 招招

一 只招人招

吉田 招招

一 只招人招

吉田 招招

一 只掛物振石

一 三人振物振石

一 只掛物振石

一 掛人振石

一 只掛物振石

一 只掛物振石

一 掛人振石

一 掛人振石

一 掛人振石

奈打集

田代四郎

白根田代

法方左衛門

水乃之右

海美市

江流良順

仙流玄碩

如左 碓氷

一 只掛物振石

一 掛人振石

長新云市代 活知云市代

一 白石

長新云市代 切振云市代

一 只掛物振石

一 只掛物振石

市書代切振云市代

一 掛人振石

碓氷 碓氷

福井 安石

碓氷 碓氷

森守 世八

近友 升

福井 伯成

山池外之部

一 長自雲中代切投古由抱後後知山友之系

一 三人持物指石 山井久安人

長自雲中代切投古由抱之系

一 三人持物指石 菱 市立所

一 四人持物指石 櫛核 年日

一 四人持物指石 忌野 十三伍

一 四人持物指石 右田 九伍方

長自雲中代切投古由抱之系

一 四人持物指在

尾信云

一 四人持物指在

山信云

一 三人持物指在

井上信云

長親云即代主方云

一 三人持物指在

山信云

長親云即代主方云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

長親云即代主方云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

長親云即代主方云

一 四人持物指在

山信云

一 三人持物指在

山信云

一 三人抄抄抄抄

一 三人抄抄抄抄

一 三人抄抄抄抄

一 四人抄抄抄抄

彦比下德

大佛石原土

彦比下德

抄抄

秋府諸士系譜所錄

長且云而分都中福島分後知方正所爲之原

一 田代印記改純子原

田代幸九郎

福島福島住

田代傳几郎

一 吉井親三郎正則子原

吉井親三郎

一 小川冬三郎貞則子原

小川源一平

一 大谷三三郎定次子原

淺路忠房

一 秋正三郎正親子原

秋正三郎

一 胃中 為 胃 子孫

一 胃 之 左 為 胃 子孫

一 腹 中 之 胃 子孫

一 系 田 中 之 胃 子孫

一 正 是 少 夫 門 之 子孫

婦 未 婚 前 之 子孫

一 財 收 化 門 之 子孫

長 息 云 中 分 知 中 初 急 不 切 投 之 子孫

胃 中 之 子孫

胃 之 左 之 子孫

腹 中 之 子孫

系 田 中 之 子孫

正 是 少 夫 門 之 子孫

婦 未 婚 前 之 子孫

財 收 化 門 之 子孫

一 仔 龍 也 氣 三 生 子孫

一 山 之 中 之 子孫

一 本 有 角 之 子孫

一 孤 七 之 子孫

一 柱 打 之 子孫

一 中 打 之 子孫

長 息 云 中 分 知 中 初 急 不 切 投 之 子孫

一 長 息 云 中 分 知 中 初 急 不 切 投 之 子孫

婦 未 婚 前 之 子孫

仔 龍 也 氣 三 生 子孫

山 之 中 之 子孫

本 有 角 之 子孫

孤 七 之 子孫

柱 打 之 子孫

中 打 之 子孫

長 息 云 中 分 知 中 初 急 不 切 投 之 子孫

長 息 云 中 分 知 中 初 急 不 切 投 之 子孫

婦 未 婚 前 之 子孫

一田代郡方政之五原

一田代郡北山五原

一田代郡西山五原

一長興云林月山并入後務各不切取方山内五原

一長興八中各乃盛然五原

一長興云林月山并入今并縣部各山借仕五原

田代郡北山

田代郡西山

田代郡東山

田代郡南

田代郡北

田代郡西

長井 自凡

一井上元以乃安堂五原

井上元以乃

一若友以乃正補五原

若友 市原

一甲修治乃正則五原

甲修治乃

以上

播列所傳代子孫

一 家傳之三子所重利子孫

一 子孫傳定之秀其子孫

一 吉田長利子孫

吉田德太郎

吉田源太郎

吉田八太郎

吉田少太郎

吉田太郎

吉田太郎

吉田太郎

吉田太郎

一 吉田長利子孫

一 吉田長利子孫

一 吉田長利子孫

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

吉田長利

一 吉田長利子孫

一長井八平左衛門子孫

一仙谷長久人長子孫

一梶原七左衛門長子孫

一川崎七左衛門長子孫

一萩正系三教子孫

一砥七左衛門長子孫

一甲村仁左衛門長子孫

長井自見

仙谷永清

梶原五郎

砥七左衛門

川崎七左衛門

萩正系三教

砥七左衛門

甲村仁左衛門

甲村仁左衛門

一田代市左衛門長子孫

一田代市左衛門長子孫

一田代市左衛門長子孫

一山代市左衛門長子孫

一山代市左衛門長子孫

田代市左衛門

田代市左衛門

田代市左衛門

田代市左衛門

田代市左衛門

田代市左衛門

山代市左衛門

山代市左衛門

一 河段化日 系子原

一 杜村 五斤七良 系子原

福長 印 係代 子原

一 四井 次 系子原

一 尾田 系子原

一 河井 系子原

一 吉井 系子原

一 产 係 系子原

三 高 河 系子原

一 杜 村 系子原

一 杜 村 系子原

一 四 井 系子原

一 尾 田 系子原

一 吉 井 系子原

一 产 係 系子原

一 产 係 系子原

一 系田 系子原

一 田中 系子原

一 仔 系子原

一 山 系子原

一 本 系子原

一 上 系子原

一 井 系子原

一 久 系子原

一 系田 系子原

一 田中 系子原

一 仔 系子原

一 山 系子原

一 本 系子原

一 上 系子原

一 井 系子原

一 井 系子原

一 久 系子原

一右田見為一某子孫

右田帶

右田九

以上

藩臣家譜跋

士之世祿古制也蓋

本朝永祿慶長之間綱紀陵夷而萬方逐鹿者數十年其間英俊並起各據方隅強兼弱衆凌寡龍拳虎視欲并四海者不為不多矣當此時也四方之士傑出於世而傳芳於萬世者不可枚舉矣

東照神君從建統一之功萃山桃林之化數百年于今其從

神君而周還者 宗國之。

先君其巨擘也其從

先君而踰陔破堅建蓋世之切士亦數百千家

也我

先君就封於秋城之肇 宗國有功之士隨從

未者與或累代之

君所登庸之士至于今世祿家從事於職矣頃

年有 命詳大夫士之家系遠山翁司其事此

舉也所謂追遠之惠哉如此焉有民俗不歸

厚字

渡邊健

